

大阪医療センターをご利用くださる先生方へ

Osaka National Hospital News



独立行政法人
国立病院機構 大阪医療センターニュース

このニュースは、年4回、大阪医療センターの最新情報をお届けいたします。
詳しいお問い合わせは地域医療連携室までお寄せください。

No.55
平成29年1月

目次

地域医療連携室より

- ・ 新任及び退職医師のお知らせ 2
- ・ 講演会のご案内 2

2017年 新年の挨拶 3

病院のトピックス

- ・ 第55回 おおさか健康セミナー報告 4
- ・ 第56回 おおさか健康セミナー報告 6
- ・ 第39回 法円坂地域医療フォーラム報告 8
- ・ 『第43回 “愛の夢コンサート”
クリスマスコンサート』を終えて 10



独立行政法人
国立病院機構

大阪医療センター

地域医療連携室

平成29年1月発行 55号

〒540-0006 大阪市中央区法円坂2-1-14 TEL.06-6946-3516 ☎0120-694-635 FAX.06-6946-3517

[HP] <http://www.onh.go.jp/> [E-mail] comonh@onh.go.jp

～ 独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターの理念～

私たち、独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターの職員は、

- 1、医療に係わるあらゆる人々の人権を尊重します。
- 2、透明性と質の高い医療を、分け隔て無く情熱をもって提供します。
- 3、医学の発展に貢献するとともに良き医療人の育成に努めます。
- 4、常に向上心をもって職務に専念し、健全な病院運営に寄与します。

～理念に基づいた病院の基本方針～

—— 独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターの診療・研究・教育方針 ——

1) 政策医療の推進

- ・ 基幹医療施設としての「がん」「心・大血管疾患」「脳卒中」「糖尿病」等、高度総合医療の実施
- ・ HIV/AIDS先端医療の推進（近畿ブロック拠点病院）
- ・ 3次救急医療と災害医療の推進（西日本災害医療センター）
- ・ 専門医療と総合診療の充実
- ・ 医療機関の機能分担の推進と地域医療への貢献（地域医療支援病院）



2) 高度先進医療への貢献

- ・ 技術開発：先進的医療の基盤となる技術の研究開発とその臨床応用の確立
- ・ 臨床研究：病因の解明、診療治療法の開発等の臨床並びにその基礎となる研究の実施
- ・ 臨床試験の推進：治験を含む臨床試験の円滑な実施とその管理・支援

3) レベルの高い医療人を育成

- ・ 卒前教育：医療系教育施設と連携した教育活動と実習生の受入
- ・ 卒後研修：初期臨床研修医及び後期臨床研修医（専修医）等、卒後の医療技術者の育成
- ・ 専門職の育成

4) 情報開示と情報発信

- ・ 透明性を保った情報の開示・発信

新任及び退職医師のお知らせ

医師異動

異動年月	職名	氏名	異動内容
H28.10.1	整形外科医師	中原 恵麻	採用
H28.10.1	皮膚科医師	加賀野井朱里	採用
H28.10.1	小児科医師	大杉 夕子	採用（当院常勤より）
H29.1.1	産科医師	寺田 亜希子	育休復帰
H29.1.1	整形外科医師	山下 智也	採用
H29.1.1	眼科医師	雲井 美帆	採用

講演会のご案内

開催日時	件名	内容	対象者
平成29年 1月28日(土)	第57回おおさか健康セミナー	テーマ：身近にある消化器の病気 担当：消化器内科	一般市民
平成29年 2月16日(木)	第10回法円坂緩和ケアセミナー	テーマ：訪問看護師からみた在宅ケア 担当：臨床腫瘍科	医師及び医療従事者
平成29年 2月25日(土)	第40回法円坂地域医療フォーラム	テーマ：未定 担当：整形外科	医師及び医療従事者
平成29年 4月22日(土)	第58回おおさか健康セミナー	テーマ：未定 担当：皮膚科	一般市民
平成29年 6月17日(土)	第41回法円坂地域医療フォーラム	テーマ：未定 担当：脳卒中内科	医師及び医療従事者

開催場所 大阪医療センター 緊急災害医療棟3階講堂 **アクセス** 地下鉄谷町線・中央線「谷町4丁目」駅①号出口すぐ

問合せ 地域医療連携室（電話：06-6946-3516）

2017年 新年の挨拶



明けましておめでとうございます。皆さま方におかれましては良いお年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中はあたたかいご支援を賜りましたことに厚く御礼申し上げますとともに、皆さま方のご多幸・ご繁栄をお祈りいたしております。

さて、当院は地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院、エイズ診療近畿ブロック拠点病院、臨床研修指定病院など種々の指定を受け、国が実施しなければならない政策医療を国に代わり地域医療において実施するという大きな使命を担っております。その他にも、緊急災害医療棟や非常用備蓄庫を備え、西日本災害医療拠点病院、大阪府災害拠点病院、厚生労働省医政局災害医療対策室DMAT事務局など、災害に対する取り組みも行っていきます。

また、今後の地域包括ケアシステムにおいては、地域における高度急性期・急性期医療を提供する共に、特別な医療需要に対する在宅医療も提供し、地域とのつながりを益々深めていきたいと考えています。ひきつづき、医師・医療者向けの「法円坂地域医療フォーラム」や「緩和ケアセミナー」、市民向けの「おおさか健康セミナー」などを定期的に開催いたします。また未来の医療人を育てるために、中学生・高校生向けに「アドベンチャーHospital in 大阪医療センター」を毎年行い、大変好評です。

本年1月中旬より外来インターネット予約を開始しました。登録医・連携医の先生方にはよりスムーズな外来予約が可能となります。是非ご活用頂ければ幸いです。救急受入についても昨年後半より「断らない救急」を合言葉にできるだけ多くの救急患者を受け入れることができる体制を整えました。

昨年より病院更新築のための発掘調査を行ってまいりましたが、一部に後期難波宮の遺跡が発見され一部設計をやり直すことが必要となりました。新病院が建つまでの間、たいへんご迷惑をおかけし、申し訳ありませんがご理解ご容赦のほどお願いいたします。

当院は専門性の高い良質の医療を提供できていると自負しています。この特長を生かし、更なる医療の質の向上、地域への還元をさらに進めていきたいと考えております。また診療のみならず、教育・研修、臨床研究、情報発信についてもこれまでの活動を継続させ、より一層発展させていく所存です。

本年度も、ご支援・ご援助のほどをよろしくお願い申し上げます。

独立行政法人 国立病院機構

大阪医療センター院長 是恒 之宏

第55回 おおさか健康セミナー報告

国立病院機構大阪医療センター 地域医療連携推進部

平成28年7月16日（土）14時から第55回おおさか健康セミナーが大阪医療センター災害医療棟3階講堂で開催されました。テーマは、『知っておきたい目の病気：白内障、緑内障、加齢黄斑変性』で、参加者数は191名でした。

大鳥 安正眼科科長の司会で中村 詠士視能訓練士から『目の検査について』という演題で講演会が始まりました。眼科を受診した場合に行われている視力検査、眼圧検査、眼底検査、光干渉断層計（OCT）検査、視野検査などについてわかりやすく講演されました。続いて、数尾 久美子医長が『白内障』についてご講演されました。白内障は水晶体が混濁する眼疾患です。加齢や酸化ストレスなどに伴い水晶体の蛋白が変性し、80歳を超えるとほとんどの人が白内障を発症します。白くかすむ、まぶしい、二重に見えるなどが自覚症状ですが、根治治療は手術治療であり、最近では非常に小さな傷口で手術をすることが可能になっており、手術機器の進歩により完成度の高い手術が可能と

なっていることを示されました。休憩時間には看護部から正しい点眼方法についての説明があった後、大鳥 安正科長から『緑内障』についてのご講演がありました。緑内障は視神経が障害する眼疾患であり、視覚障害の原因疾患の第一位です。40歳以上で20人に1人、白内障を発症する70歳では10人に1人が発症します。白内障と異なり、視力低下などの自覚症状に乏しく、視野欠損を自覚するころにはかなり病期が進行しています。早期診断が重要であり、OCT検査により視野障害が生じる前の極早期の段階でも発見されるようになりました。眼圧が正常範囲（10～20mmHg）の緑内障が7割を占めますが、眼圧を下降することが視野障害の進行速度を緩徐にするために有効な治療といわれています。続いて、松田 理医師が『加齢黄斑変性』についてご講演されました。黄斑、加齢黄斑変性、硝子体注射、人工多能性幹細胞（iPS細胞）をキーワードとしてわかりやすく講演されました。黄斑は視細胞が密集しており視力が



最も出る部位であるがゆえに、黄斑に障害がおこると視力低下やゆがみが生じます。加齢黄斑変性は食事の欧米化や光刺激の増加が原因とされ、日本でも増加傾向の眼疾患です。最近10年くらいで治療方針が大きく変化し、硝子体に直接薬剤（抗血管新生薬）を注入する硝子体注射が広く普及し、実際に視力維持効果が示されています。しかしながら、薬剤の濃度が低下すると病変が再燃するため、繰り返し注射をしないといけないことが課題となっています。最新の情報としてiPS細胞を用いた臨床研究の現状についてもご説明になりました。休憩時間には看護部から簡単な目のリラックス体操が行われました。その後、聴講者からのアンケートに関する質疑応答では活発な意見交換がありました。

大阪医療センターでは、今回取り上げた白内障、緑内障、加齢黄斑変性について対応できる診療体制を取っております。今後とも患者さんのご紹介をよろしくお願いいたします。



第56回 おおさか健康セミナー報告

国立病院機構大阪医療センター 産婦人科 科長 巽 啓司

平成28年10月22日（土）14時から、大阪医療センター緊急災害医療棟3階講堂におきまして、産婦人科が担当する第56回おおさか健康セミナーが開催されました。メインテーマは「卵巣のはなし」で、参加者は67名でした。

前回、産婦人科が担当しました4年前の第40回おおさか健康セミナーでは、「子宮のはなし」をテーマとして子宮の良性腫瘍、子宮がんについてのお話をしましたので、今回のセミナーでは、婦人科診療の対象として子宮について多い卵巣を取り上げることとしました。

セミナーは、橋川一雄 地域医療連携推進部長による開会の挨拶で始まり、巽 産婦人科科長が総司会をつとめました。

最初に巽から、『卵巣のしくみとはたらき』と題してオリエンテーションを行いました。卵巣はからだのどこにあるかから始まり、卵巣のなかで卵が成熟し排卵するしくみや、女性ホルモンの分泌とその調節機構、月経との関わりについてのお話しをし、性成熟期の女性のからだにおいて、卵巣が果たしているとても重要な役割の数々について紹介しました。一方、そのはたらきに不具合が生

じたときに月経不順、不妊症など様々な病態が起こること、また卵巣は小さい臓器ですが多くの種類の細胞からできており、そのため多種多様な腫瘍が発生することを解説しました。

続いて4名の産婦人科医師が、卵巣の腫瘍について講演しました。はじめに、岡田由貴子医師が『卵巣良性腫瘍』についてお話ししました。卵巣良性腫瘍は比較的若い女性に多く、茎捻転を起こすと緊急手術が必要になることもあること、たくさんの種類の腫瘍があり、例えば卵を起源として油や毛や歯なども含む皮様嚢腫、月経痛等のQOLを低下させる子宮内膜症性嚢胞や不妊症にも関係する多嚢胞性卵巣（PCO）についても紹介されました。また画像診断で悪性腫瘍との鑑別のポイントについての解説がありました。なお卵巣良性腫瘍に対しては、今ではそのほとんどが腹腔鏡下で手術が行われていますが、技術認定医である岡田医師が施行した実際の腹腔鏡下手術のVTRを供覧し、その手技が解説されました。次に、藤上友輔医師から『卵巣がん（卵巣悪性腫瘍）』についてお話ししました。多種多様な卵巣がんについて、それぞれの腫瘍の特徴やMRIやPET/CT等の画像診



第39回 法円坂地域医療フォーラム報告

国立病院機構大阪医療センター 乳腺外科 科長 増田 慎三

第39回法円坂地域医療フォーラムは、ピンクリボン月間の10月にあわせ、平成28年10月29日、当院講堂にて開催させていただきました。テーマを「Case studyから知る乳癌診療～いま、そしてこれから」と設定し、広報・啓発活動責任者の水谷麻紀子医師を中心に構成を練り、準備を進めてまいりました。参加人数は院外60名・院内32名の計92名で、盛況で実りの多い会となりました。

最新の医療統計によりますと、女性のがん罹患の第1位が乳がんであり、年間90,000人が新規に罹患し、まだまだ増加傾向にあります。他の癌腫と異なり40～50歳が好発年齢であり、個人はもとより、家族や社会において最も重要な役目を担う年代での乳癌罹患は非常に大きな影響を与えるイベントでもあります。一方で、予後については、5年生存率で88.8%（1997-2002）から92.6%（2003-2007）と約4ポイントの改善も確認できました。正しい診療を受け、自らが積極的に治療に取り組むことが大切であることを示唆していると思えます。

第39回 法円坂 地域医療フォーラム

**テーマ：「Case studyから知る乳癌診療
～いま、そしてこれから」**

日時：平成28年10月29日(土) 15:00～17:30
会場：国立病院機構 大阪医療センター 緊急災害医療棟 講堂(3階)

【司会】 国立病院機構大阪医療センター 地域医療連携推進部長 横川 一雄
1. 開会挨拶 国立病院機構大阪医療センター 院長 是恒 之宏

2. 講演
【座長】 国立病院機構大阪医療センター 乳腺外科 増田 慎三・水谷麻紀子
第一部「知っておきたい乳癌の基礎～乳癌の疫学・診断を中心に～」
国立病院機構大阪医療センター 乳腺外科 医師 水谷麻紀子
第二部「乳癌周術期治療の現状～手術・薬物療法を中心に～」
①「手術療法」 国立病院機構大阪医療センター 乳腺外科 医師 八十島宏行
②「薬物療法」 国立病院機構大阪医療センター 乳腺外科 医師 大谷 陽子
第三部「より患者さんのために～大阪医療センターの特徴～」
①「患者さんからの相談について」 国立病院機構大阪医療センター 乳がん看護認定看護師 四方 文子
②「患者情報室からのメッセージ」 患者情報室 澤田 悦子
③「臨床治験・臨床試験参加のすすめ」 国立病院機構大阪医療センター 乳腺外科 科長 増田 慎三
3. 閉会挨拶 国立病院機構大阪医療センター 統括診療部長 三田 英治

主催：「法円坂 地域医療フォーラム」運営協議会

第1部と第2部は、新進気鋭の3名の専門医が担当しました。まずは乳癌の基礎知識として、疫学や検診の話題、そして非浸潤がんと浸潤がんの概念、ホルモン受容体（ER/PgR）とHER2発現状況を中心とした乳癌Biology、BRCA関連の遺伝性乳癌の情報を水谷麻紀子医師から紹介させていただきました。その後、閉経前のER陽性乳癌患者さんのモデルケースを用いて、実際の診療の流れを、手術・放射線治療の局所療法を八十島宏行医



師、薬物療法を大谷陽子医師が担当し、随所随所に個々のバリエーションも加味しながら、現状と将来展望を含めて、概説させていただきました。

局所療法については、乳房切除から温存手術の趨勢を経て、乳房再建術の保険適応により、確実ながんの切除と整容性の両方を保証できる時代になったこと、腋窩リンパ節についても、広範囲郭清からセンチネルリンパ節概念による郭清省略、さらに昨今では転移個数が少ない場合でも郭清不要が標準になりうることを紹介しました。

乳癌治療は、局所療法と全身治療の両者のバランスによって構成されますが、そのバランスは個々のがんのbiologyやhostの健康状態によって異なります。薬物療法については、比較的臨床的に早期な状態から全身病の性格を有する乳癌において、ホルモン療法、化学療法、抗HER2療法などの分子標的治療など多くの武器となる“薬”の候補から、個々に適した治療選択を行う現状、さらに、それを実現するために、我々は術前薬物療法の実践と研究に傾注していることをお伝えしました。

乳がん診療は特に進行再発時にはいわゆる全身疾患でもあり、また薬物療法の副作用の観点からも多角面からのアプローチや支援を必要としています。大阪医療センターは各診療科に専門医が集

う総合病院であることが大きな強みであり、患者さんに“安心”を提示できていると思います。また薬剤師・看護師・放射線診療技師や臨床検査技師など多職種も参画する大きなチーム医療体制が構築されています。第3部では、そのほんの一例として、乳癌看護認定看護師の四方文子さん、そして、患者情報室でピアサポートの視点からボランティア活動にご尽力いただいている澤田悦子さんから、“患者さん支援”の話題を拝聴しました。

当院乳腺外科は高塚雄一先生、辛栄成先生の築かれた臨床研究・治験の基礎を継承し、CRCの手厚いサポートの元、臨床研究や新規薬剤開発の治験にかなりのエフォートを充当しています。今の標準治療はもとより、より治療効果を高め、また一方で負担を軽減できるような新しい取り組みに、患者さんが一緒に参加でき、グローバルの著名な先生方のアイデアを一足先に享受できる機会が臨床試験であると信じ、日々取り組んでいる状況を最後に増田から紹介させていただきました。

大阪医療センター乳腺診療は、地域の先生方から信頼され、“乳がんで命を落とさないよう、一人ひとりに適した治療方針で、そして少しでも楽に取り組めるような環境”を提案できるように、常に高いレベルを求め、精進して参ります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



『第43回 “愛の夢コンサート” クリスマスコンサート』を終えて

ボランティア・コーディネーター 藤本 和彰

2016年12月13日、当院・講堂にて音楽ボランティアの皆さまによる、第43回“愛の夢コンサート”クリスマスコンサートを開催しました。

会場の講堂には大小2体のクリスマスツリーが、ボランティア「法円坂」の皆さまにより、とても綺麗に飾り付けられました。そして会場は楽しみにされている患者さん・ご家族で一杯に！ “皆さまこんばんは〜…” いつも進行のお手伝いをして下さっている、八田 叔子さんの挨拶でコンサートが始まりました。

最初の奏者は、ピアノソロの佐竹 史子さん。今回で43回を迎えた“愛の夢コンサート”ですが、第1回よりレギュラー出演していただいています。オープニング曲は映画「旅情」の主題歌、「♪サマータイム・イン・ベニス（ベニスの夏の日）」。「旅情」は1955年に制作・公開されたイギリスとアメリカ合衆国の合作映画です。主演はキャサリン・ヘプバーンとロッセノ・ブラッツィ。ロッセノ・ブラッツィが歌った主題歌「サマータイム・イン・ベニス」は大ヒットしました。銀幕スターの面影や、映画の1シーンなど思い出されましたでしょうか？!

続いての曲は「♪エーデルワイス」「♪タラのテーマ」。きょうは映画音楽、3曲を聴かせて下さいました。それぞれに情景を思い浮かべながら、懐かしく聴いておられたのではないのでしょうか。

そして最後は、オリジナル曲「♪ハーブの丘」。神戸布引ハーブ園を訪れた時に作られた曲だそうです。ハーブの丘に着いて、自分の乗って来たロープウェイが「ふわふわした風船」のように見えて、その情景やハーブの丘の風景を曲にされました。

ピアニスト・作曲家として活躍中の佐竹 史子さん。その華奢な体からは想像できない華麗なテクニックと、作曲家ならではの情感豊かで、美しいアレンジの旋律に思わず引き込まれてしまいます。生のピアノ演奏をさぞやお楽しみいただけたことを感じています。

続いての奏者はピアーチェの皆さん。ピアーチェはイタリア語で「楽しい」「愉快的な」という意味です。皆さまの身近な場所を訪問し、ピアノ・ヴァイオリン・フルート・歌のアンサンブルで生演奏を届けて下さいます。これまで、ピアノ（山



口 美樹子さん)・ヴァイオリン (浜田 里香さん)・フルート (川瀬 千佳江さん)・歌 (ソプラノ・平田 雅代さん) 女性4人のアンサンブルに、黒一点クラリネット奏者・森 健太郎さんが参加して下さいました。

クリスマス曲や讃美歌、フィギュアスケート・浅田真央選手のプログラム曲「リチュアル・ダンス (火祭りの踊り)」など、今回も、とってもバラエティに富んだ素敵なプログラムを作って下さり、ソプラノの美しい歌声と素晴らしい演奏で、「ピアチェ」ならではの、文字通りの楽しい・愉快的思い出に残るステージを、多くの患者さんに届けて下さいました。そして何よりも「元気」をいただきました。

「みんなで歌いましょう！」では、会場の皆さんと、ステージに副院長先生をはじめ、副看護部長、看護師さんなど9名のスペシャルゲスト(?)をお迎えし、手話をまじえて歌った「♪赤鼻のトナカイ」。その熱演に先生方のいつもと違った、こころ穏やかな表情を垣間見せていただいた気がします。

そしてプログラム最後は、ベートーベン作曲・『交響曲第9番』より「♪喜びの歌」。ソプラノ歌手・平田雅代さんは、「テレビのニュースなどで、オーケストラで演奏して、“第九”を歌っているシーンとかが、よく流れたりしています。今は病気が怪我で大変な思いをされていると思いますが、来たる2017年が明るい未来、希望いっぱいになるよう願って、ピアチェが演奏でのお手伝いをし、この曲を皆さんと一緒に歌い、第九の気分を味わっていただこうと思っています。」と述べられました。



前奏に合わせ、会場皆さまの元気な「喜びの声…」と、ちから強い「喜びの歌…」が聴こえ、「今日、音楽を通じて“一つになれた”」、「たくさんの笑顔と友情に溢れた人々に歓迎してもらった…」という、そんな気持ちになっていました。とっても素敵な第九になりました。十分に「第九」の気分を味わっていただけたのではないのでしょうか。

音楽を身近に感じ、心豊かな時間を過ごしていただけたこととっております。音楽はどんな時でも、どんな所でも、みんなで一緒に心で楽しめる大きなパワーを持っていると信じています。一期一会、音楽を通じ少しでも心を和らげ、これからの療養のお役に立てれば幸いに思います。患者さんの一日も早いご回復と、ご退院をボランティア・職員一同願っております。

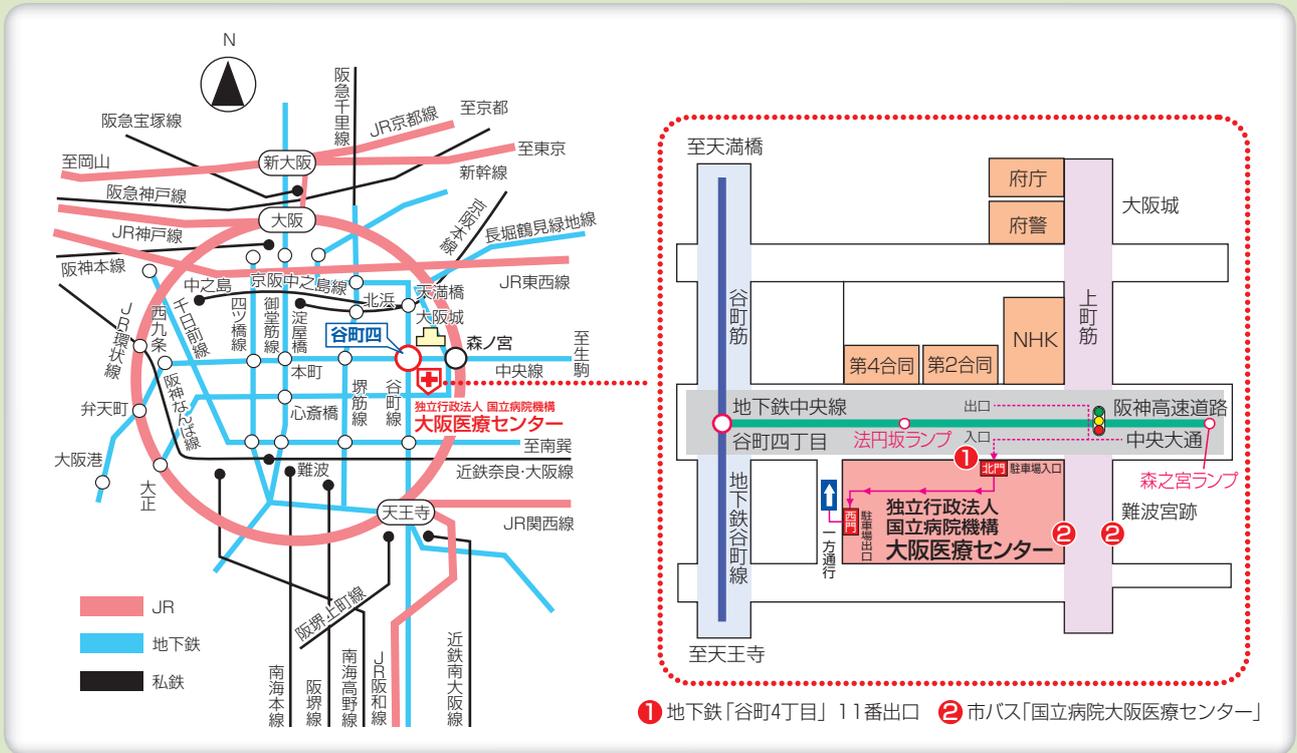
少しばかり早い「Xmasコンサート」に、皆さまがハッピー (Happy) な気持ちになって、クリスマス気分を満喫していただけたならば、幸いに存じます。

音楽ボランティア皆さまからの心の贈り物「愛の夢」クリスマスコンサート、会場いっぱいのお客さまに聴いていただくことが出来ました。

そして何よりも、この病院コンサートが末永く続くことを願っております。「楽しい時間をありがとうございました。」皆さまのご支援・ご協力を感謝いたします。



交通のご案内



■地下鉄

谷町線・中央線「谷町4丁目」駅下車 ①番出口すぐ

■J R

大阪環状線「森ノ宮」駅下車、地下鉄中央線乗り換え「谷町4丁目」駅下車 ①番出口すぐ

■バス

市バス「国立病院大阪医療センター」下車

■マイカー・タクシー

- ・ 阪神高速 13号 東西線
- ▼環状線経由の場合
 - 「法円坂」出口 上町筋を右折転回し、左折すぐ
- ▼東大阪方面からの場合
 - 「森ノ宮」出口 中央大通り直進、上町筋と中央大通りの交差点を直進し、左折すぐ
- ・ 現在新病院建設工事の為、中央大通り沿いの入口(北側)をお願いしております。
- ・ また、敷地内は一方通行になっており、出口については西側となっております。
- ご協力よろしくお願いたします。